

「染まる」と「染める」の間に成り立つ造形

大阪芸術大学 工芸学科 特任准教授 舘 正明

染色教育の中で見落とされていた「染まる」という現象に注目し、染色にしかできない表現を探求するため、研究課題を『「染まる」と「染める」の間に成り立つ造形』とした。染色には「染まる」という現象が存在し、その染まるという現象を作品へ昇華する制作をこれまでも続けてきた。今回の教育研究補助費においては、これまで取り組んできた「連続と不連続の境界」シリーズを発展させるため、素材の選択、技法の開拓、制作工程の工夫などの課題に取り組み、新たな表現方法の開拓を制作研究として進めた。また、染色以外の他分野において、制作という行為と素材が見せる現象との間にある造形にはどのようなものがあるのかを他分野研究として調査した。

制作研究においては、染色作品における支持体となる布に注目した。描画材料となる染料は支持体である布の繊維に結合することでその色彩を見せることができる。油画においてもキャンバス（布）が支持体であるが、私たちが作品を見る段階では、キャンバス（布）は絵具に覆われていることが多く、言わば油絵具を見ている様なものである。それに対し染色作品は例えどれだけ濃く染め重ねようとも、染料が布の表面を覆い隠し、布が見えなくなることはない。染色作品において布は支持体であると同時に描画材料ともいえる重要な素材である。この重要な役割を果たす布に今回の制作研究では経糸がレーヨン、緯糸が絹の布を採用した。染料は染色する布の種類により使用する染料が異なる。経糸のレーヨンは合成繊維で成分はセルロースであるので、反応染料により染色が可能である。緯糸の絹は天然繊維で酸性染料により染色が可能である。この繊維の種類と染料の対応の関係を利用すれば、経糸と緯糸のどちらを染めるかを選ぶことができる。事前に糸を染め、布を作り出す「織り」では経糸と緯糸に色彩の異なる糸を用い、玉虫色の効果を作り出せることは知られているが、織り上げられた布に染色によって色彩を施す「染め」ではあまり例がない。これまで取り組んできた「連続と不連続の境界」シリーズに、この素材を採用することで、蠟の防染効果ともに表現してきた「染まる」という現象を、より際立たせることができ、「染める」行為を積極的に用いることができると考えた。この布に適した蠟の防染効果を得るための蠟の配合や2種類の染料を使い分ける染色工程など、技法の開拓、制作工程の工夫などの課題に取り組み、実験及び制作を行った。その結果、作品の表面となるレーヨンには蠟染めを、裏面となる絹には浸染で染色を行い、表裏が補色関係で玉虫色の効果を持つ染色布を作ることができた。今回は紫と黄を用いた補色関係での制作に成功したが、他の組み合わせではまだ十分な効果を得られていないので引き続き研究を行いたい。また、今回制作した作品は平面作品で、観者が移動することで視点が変わり、玉虫色の効果が確認できる。この効果をより有効に利用するため、立体への展開も検討したい。

他分野研究においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、当初調査を予定していた展覧会の中止や延期があった。研究と言える段階ではないが、調査を行った展覧会、作品の所感を報告したい。

「竹工芸名品展 ニューヨークのアビーコレクション-メトロポリタン美術館所蔵」（大阪市立東洋陶磁美術館、2019/12/21～2020/4/12）での門田篁玉の「維新」は細く裂かれた大量の竹ひごがドーナツの様に中心部に向かってまとめられ、磁場を思わせる形を作っている。その竹の動きには作者がどこまで関わっているのか。他の作品の様にしっかりと編まれたものであれば作者の意図を十分に感じることができる。今回の研究課題である「染まる」と「染める」の間と同様に、この作品には作者の作る形と素材が見せる形の両方があると考えられる。

「杉本博司 瑠璃の浄土」（京都市京セラ美術館、2020/3/21～6/14）での「OPTICKS」のシリーズ作品は、観者が観ているものについて考えさせられる作品であった。制作研究で前述した様に、染色は支持体である布を観ている。ではこの「OPTICKS」は印画紙を観ているのか、感光材料を観ているのか。今後の制作を考える上での新しい観点を得る機会となった。

「ミナ ペルホネン／皆川明 つづく」（兵庫県立美術館、2020/7/3～11/8）では、デザインと完成品との関係に注目した。デザインを布に仕上げる際、様々な職人の手がかかっているが、そのデザインを布として成り立たせる際にあつたであろう、技術や素材が関係する問題点が気になる。それらをどのように解決し、完成品となったのか、そのプロセスにこそ価値があるのではないかと考える。今後の課題としてこのようなプロセスも研究対象になるのではないかと新たな視点を見出すことができた。

作品発表の成果として、作品発表展覧会も下欄に報告したい。

- ・本気の T シャツ展（伊丹市立工芸センター、兵庫、3/7～途中緊急事態宣言により中止、2020/6/20～7/5 本気の T シャツ展リターンズとして再展示）
- ・連続と不連続の境界-supremacy-（ギャラリーギャラリー、京都、2020/11/7～11/22）
- ・オリエ 30×30cm アート展 Rich Seasons-III（オリエアート・ギャラリー、東京、2020/11/16～11/27）
- ・国際工芸アワードとやま（富山県美術館、富山、2021/2/25～4/4）
- ・The 11th International Fiber Art Biennale（優秀賞受賞、新型コロナウイルス感染拡大防止の対応により Web にて開催
lbfiberart.ad.tsinghua.edu.cn
- ・JTC テキスタイルの未来形 2021（宝塚市立文化芸術センター、兵庫、2021/3/6～3/28）